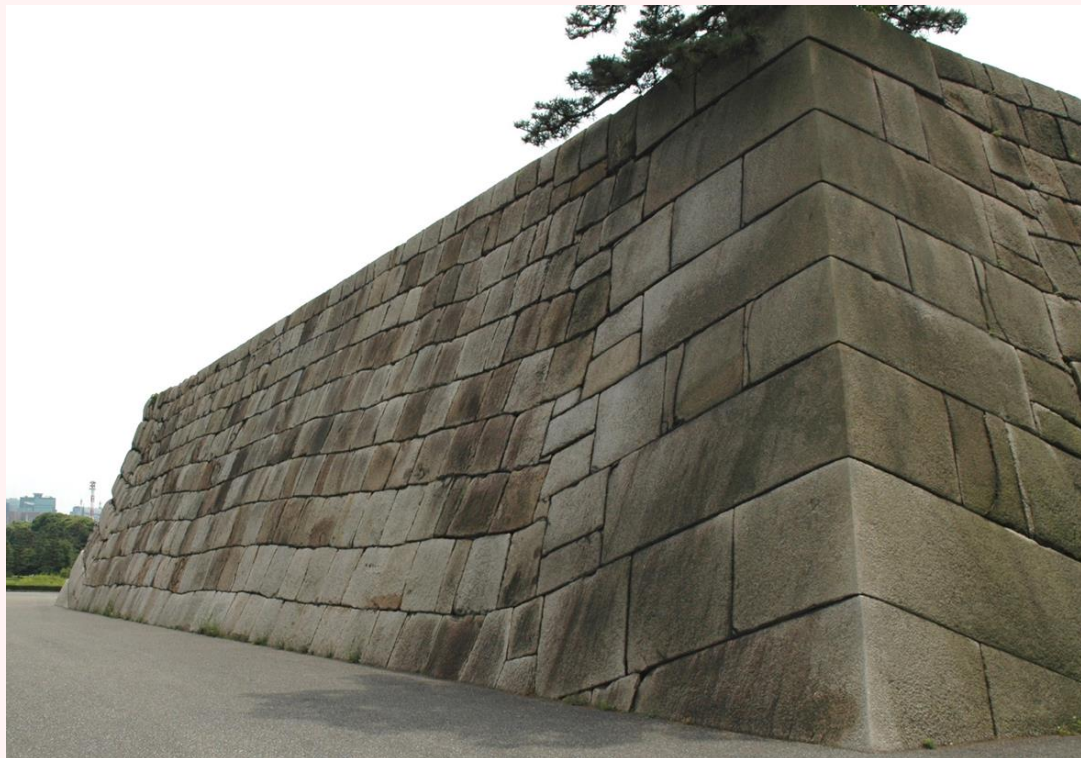


ご存じですか？ 江戸城天守台(石垣)のこと

皇居東御苑

詳細はホームページ「理事長特別メッセージ」をご覧ください。



1. 模型設置により、天守は本当にできるのか？

2020年9月、皇居東御苑の休憩所に天守の模型の展示がされました。これにより、天守は「できるのか、どのような状況になっているか、事実を知りたい。」「模型は、これまで見てきた江戸城天守とは違うのではないか。」「極めて難題が多く不可能と聞いているが、さも、出来るかのごとくの宣伝している運動があるが、いずれ、問題となるのではないか。」等のご意見やお問合せが、当会に寄せられています。天守模型設置の背景は、2017年3月、観光立国推進会議を経て、宮内庁が、天守模型作製を公募を行い、江戸城の第一人者である平井聖東京工業大学名誉教授の監修の下、寛永期の天守を精密に作製されたと云われております。**模型設置の意味は往時の天守の姿を偲ぶことができます。無論、天守の建築に繋がるものではないといわれています。**

2. 「復元整備」の対象は、歴史的事実が存在した天守や城

これは、全国の各地域振興で進めるお城再建の声を受けて、文化庁は、2020年4月、復元整備基準を明示しました。そもそも、**歴史的事実が存在しないお城や天守等は対象外となっています。**この緩和基準をうけて、歴史的事実をベースに復元整備を検討する高松城や復元そのものを再検討（実質的に中止）する事例もある一方、駿府城や皇居東御苑に建築を目指す**江戸城天守のように歴史的に存在しない天守復元（建築）が進まない」「事実」**も明らかになってきました。

3. 東御苑の台座の上に、天守不在自体の意味及び課題：

特別史跡江戸城の遺構は国宝と同格です。天守台の石垣は当時の最高技術により築城された再現不可能な本物であり、石垣の保全は城跡整備で最も優先順位が高く、ダメージを与えない事が大前提となります。一つでも破損した場合の損害賠償や費用負担の責任問題があります。

4. 「史跡の国宝・天守台」の石垣問題のリスク：

堅牢と云われた熊本城の石垣は2016年4月の熊本地震で脆くも崩れ、その修復には20年以上かかると云われています。東御苑天守台の石垣問題は、極めてリスクが高く難題であるとの認識から第一線の内外の研究者や多くの関係者の合意形成は困難と財団設立後の調査で判明しております。日本政府が1992年に比準した世界遺産条約（ベニス憲章の精神を引き継ぐ）では遺跡の保存の為に建造物、即ち、天守台・石垣の保存のために天守の建築は原則禁止である、といえるでしょう。

5. 時代的整合性の検証と創作の天守の危惧：

現存する天守台の石垣は万治度に造られ、天守は現在の天守台の上に建築されたことは、一度もありませんでした。その為、天守の建築をする場合には、歴史上、どこにもなかった「創作の天守」になる危惧があります。また、木造で、**一度作ったら、将来に亘るメンテナンスに多額の費用がかかり、SGDsの作る責任、使う責任を問われるなど、後世への負担が生じます。**これらの費用負担の責任問題や「時代的整合性」の理論構築が問われるところです。

6. 江戸幕府の歴史的英断、町民の救済と復興優先、再建が行われなかった意義：

明暦大火（1657年）により市街の6割が焼土と化し、10万人以上の尊い人命が失われたことから、江戸幕府は、万人塚（回向院）において無縁仏の鎮魂のための大法要を取り行いました。保科正之公はこれにより、焼失した天守再建をするよりも江戸町民の救済や復興、防災を優先したという事実があり同時に、戦いの世は終わったとして、**「天守不在自体が平和の象徴」**になったといわれています。

このように、「江戸幕府の英断」という歴史的事実があり、以降は本丸御殿の富士見櫓が、美しさと眺望を兼ね備えた実質の天守として扱われ、各諸藩でも幕府への遠慮から、天守再建は行われなかったと云われています。明暦大火以降は、時代と共に城の役割が変わっていったということが、良く分かります。以上のことから歴史的事実に基づく**「時代的整合性」や「歴史的事実やその関係性」の重要性**をどのように受け止め、後世に継承するのか、も問われています。

7. 改めて、本当に建つのか、という 国際的、歴史的文化的、理念的、技術的課題

前述した、国際憲章及び歴史的文化的かつ理念的な課題をクリアすることが出来るか否か、世界遺産に相応しい天守再建の「意義」を策定することができるのでしょうか。

同時に様々な今日的要求(建築基準法、消防法、バリアフリー等)を踏まえた工事自体が可能かどうか、可能でなければ当然工事はできず、そもそも、文化財保護法第43条による現状変更は出来ません。

以上のような背景から、国際的・グローバルスタンダード歴史的、文化的、理念的かつ、技術的などの課題からも皇居東御苑の台座の上に天守を復元することは、極めて難題が多く、改めて、不可能に近いと云わざるを得ないでしょう。詳細はHP特別メッセージをご覧ください。